



《漁港厳冬》1977 油彩
AOKI ホールディングス蔵

生涯100年 歿後20年

相原求一郎の軌跡

—大地への挑戦—

2019.6/2(日) - 7/15(月・祝)

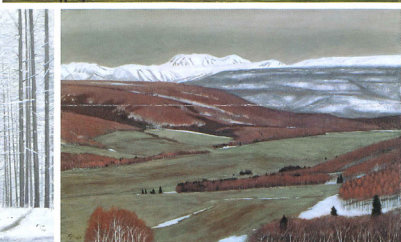
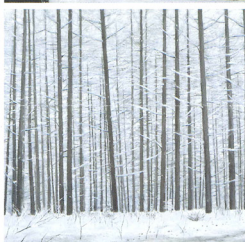
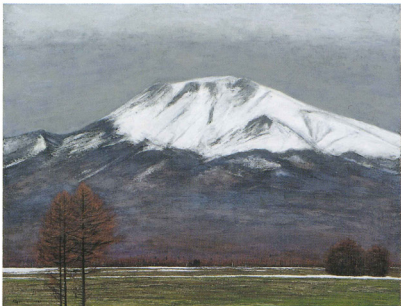
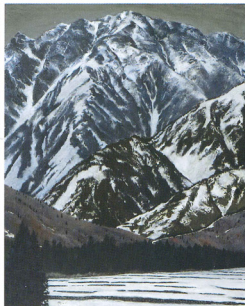
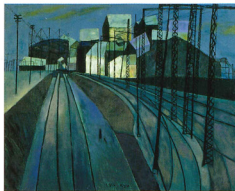
- 開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
6/8(土)のみ全館休館
- 観覧料 一般1,000円(900円) 大高生600円(500円)
中学生以下無料

※()内は20名様以上の団体料金。他の割引につきましてはお問い合わせください。

【主催】相原求一郎生涯100年記念プロジェクト、信濃毎日新聞社
【後援】長野県、長野県教育委員会、軽井沢町、
信越放送、長野放送、テレビ信州、長野朝日放送

※このチラシをご持参いただくとは2名様まで100円引きになります。

脇田美術館
WAKITA MUSEUM OF ART



相原求一郎の軌跡

生誕100年 没後20年

—大地への挑戦—

2018年は、北海道の自然を描き続けた画家・相原求一郎（1918-99）の生誕100年にあたり、また2019年は相原の没後20年を迎えました。この記念すべき年に、3会場を巡回する大規模な相原求一郎展を開催致します。

相原求一郎は、1918（大正7）年、川越の卸問屋業を営む家に生まれました。絵の好きな少年でしたが、長男であったことから一旦は美術の道を諦め、家業に従事しながらも独学で絵を描き続けました。戦時中は、招集により足かけ5年に渡る兵役生活を経験し、多感な青春期に重なる4年半過ごした満州の広大な大地が、のちの画業にも影響を与えることとなる相原の原風景となりました。

そして戦後、1948（昭和23）年にモダニズムの画家・猪熊弦一郎に師事したことで画家としての道が開かれ、以来、新制作協会を拠点に、満州を思い起こさせる北海道の大自然をモノクロームの色調で抒情的に描きました。

今回の展覧会では、初期から絶筆までの代表作に、愛すべき小品やデッサンを加えながら、約75点の作品群で相原の画業を回顧します。多くの方に相原芸術の魅力を知っていただけましたら幸いです。

昨年12月に生まれ故郷の川越市からスタートした展覧会は、作家の生涯のテーマとなった北の大地・北海道へと巡回して、本展、軽井沢の脇田美術館が最後の会場となります。

本美術館は、1991年に脇田和（1908-2005）の作品を収集・展示する空間として造られました。現代洋画家を代表する脇田和は、ベルリンから帰国後1936年に猪熊弦一郎、小磯良平らと共に新制作派協会（現・新制作協会）を設立。相原求一郎は1950年の第14回新制作派協会展に初入選して、画壇デビューを果たしました。以来、師と仰ぐ脇田和の美術館での今回の展覧会は、相原求一郎にとって、幸甚の至りであると言えます。

1	4	5
2		
3	6	7
8		

- 1.《鐵路のある風景》1954 油彩
 - 2.《すけそうだらの詩（ノザップ）》1968 油彩
 - 3.《三輪車のある風景》1969 油彩
 - 4.《秋田県立近代美術館展》
 - 5.《朝陽早暮》1980 油彩 富山県美術館蔵
 - 6.《満開三月》1993 油彩
 - 7.《雪の彫刻》1991 油彩
 - 8.《春の丘 トラウマ山》1995 油彩 相原求一郎美術館蔵
- 川崎市立美術館蔵 (1,2)
AOKI ホールディングス蔵 (5,6,8)

優待のご案内
賛助会員様への各種優待サービスがございます。詳しくはwebをご覧ください。石川県立美術館にて開催の展覧会・有料観覧券の半券のご提示で会期中に限り、ミュージアムショップ＆カフェにて優待サービスがご利用いただけます。

【アクセス】

JR・しなの鉄道：
軽井沢駅北口より
徒歩10分
車：上信越道
碓氷軽井沢 I.C.より
国道18号線を
旧軽井沢方面へ入る



脇田美術館
WAKITA MUSEUM OF ART

〒389-0102 長野県軽井沢町旧道1570-4
TEL:0267-42-2639 FAX:0267-42-0071